

「マニラ首都圏におけるスラムの女性住民の移動過程—国際労働移動との関連から—」

.....太田麻希子（日本学術振興会・研究員）  
（山内昌和記）

## ヨーロッパ人口学会2010年大会

標記の学術集会（European Population Conference 2010）が2010年9月1～4日の4日間にわたりオーストリアの首都ウィーンにおいて開催された。本大会はヨーロッパ人口学会（European Association for Population Studies: EAPS）がウィーン人口研究所（Vienna Institute of Demography: VID）と共同で開催したものである。欧州をはじめ、世界各地から多数の参加者があり、日本からも筆者を含め数名が参加した。

本大会のメイン・テーマは「人口と環境」（Population and Environment）であったが、そのためのプレナリー・セッションが設けられるわけでもなく、特に本テーマで盛り上がったという印象はなかった。従来同様「出生力」、「家族・世帯」、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス」、「国際・国内人口移動」、「健康・傷病・死亡」、「ライフコース」、「政策」など主要なテーマの下、多くの口頭発表セッションとポスターセッションが設けられ、活発な報告と討論がおこなわれた。出生力に関しては、近年の欧州諸国における出生率の反転上昇傾向に関心が注がれた。

筆者はポスターセッションで“The changing transition to adulthood in Japan: delay, diversification and increasing atypical cases”と題する報告をおこなった（本研究所の別府志海主任研究官との共同報告）。若者の就業や家族形成の現状と政策のあり方は先進諸国共通の課題であり、引き続き欧米の研究動向に注目したい。次回EPCは2012年にストックホルムで開催される予定である。  
（佐藤龍三郎記）